

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：畜産業費 目：家畜保健衛生費

事業名 自衛防疫強化促進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 家畜防疫対策課 防疫指導係 電話番号：058-272-1111(内4159)

E-mail : c11449@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 580千円 (前年度予算額) 580千円

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	580	0	0	0	0	0	0	0	580
要求額	580	0	0	0	0	0	0	0	580
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・家畜伝染病の防疫対応については、行政である県と生産者とが連携して実施する必要があることから、一般社団法人岐阜県畜産協会が積極的に生産者の自衛防疫活動を展開
- ・一般社団法人岐阜県畜産協会では、生産者の自衛防疫の推進及び家畜衛生意識の高揚を図るため、推進会議の実施、家畜衛生に関する啓発資料の配布、指定獣医師によるワクチン接種を実施
- ・県内では、平成28年度・令和2年度・令和5年度・令和6年度に高病原性鳥インフルエンザ、平成30年度・令和元年度に豚熱が発生しており、悪性伝染病のまん延防止を図るには、生産者による自衛防疫強化が重要

(2) 事業内容

- ・生産者の衛生意識の高揚と家畜伝染病の発生予防のため、一般社団法人岐阜県畜産協会が実施する生産者の自衛防疫活動（消石灰による消毒薬散布等）に対する補助事業に要する経費の一部を補助

(3) 県負担・補助率の考え方

事業費負担 県1/2以内 (一般社団法人岐阜県畜産協会)

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	580	消毒活動等の自衛防疫事業への補助
合計	580	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 岐阜県飼養衛生管理指導計画

第四章 家畜の所有者又はその組織する団体が行う自主的措置の活性化に関する事項

(2) 事業主体及びその妥当性

- 事業主体：一般社団法人岐阜県畜産協会
- 事業主体の妥当性：生産者の自衛防疫活動を積極的に支援、かつ安全な畜産物の提供を推進する各種事業を実施する県内唯一の自衛防疫団体。平成25年度から一般社団法人。
- 事業主体：市町村・農業者団体等
- 事業主体の妥当性：国の制度上、補助対象者が限定されているため。

県単独補助金事業評価調書

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	自衛防疫強化促進事業費補助金
補助事業者（団体）	一般社団法人岐阜県畜産協会 (理由) 県内の家畜のワクチン接種等、自衛防疫活動を組織的に実施する県内唯一の団体
	市町村・農業者団体等 (理由) 国の制度上、補助対象者が限定されているため。
補助事業の概要	(目的) 家畜伝染病の発生予防 (内容) 消毒活動等の自衛防疫事業への補助
補助率・補助単価等	定率 (内容) 1/2以内 (理由) 自衛防疫活動は畜産農家にとって負担となるが、不可欠なものである。
補助効果	自衛防疫活動の強化により、当該農家はもちろん地域の家畜伝染性疾病的発生を防止することができる。
終期の設定	終期 令和8年度 (理由) 自衛防疫活動は毎年行うものであるが、疾病発生状況は刻々と変化しいるため、必要に応じて都度見直しを行う。

(事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか
生産者の衛生意識の高揚と家畜伝染病の発生予防のため、生産者が自ら実施する自衛防疫の支援及び推進を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H29)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①高病原性鳥インフルエンザ発生農場	0	1	0	0	0	100%
②口蹄疫発生農場 豚熱発生農場	0	0	0	0	0	100%

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	491	485	465

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 補助事業の活用もあり、各生産者の衛生意識の向上と、家畜伝染病のまん延防止につながった。
	指標① 目標：0 実績：0 達成率：100 %
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 高病原性鳥インフルエンザが1件発生したが、補助事業の活用もあり、各生産者の衛生意識の向上と、家畜伝染病のまん延防止につながった。
	指標① 目標：0 実績：1 達成率：— %
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 高病原性鳥インフルエンザが1件発生したが、補助事業の活用もあり、各生産者の衛生意識の向上と、家畜伝染病のまん延防止につながった。
	指標① 目標：0 実績：1 達成率：— %

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)	
3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 2	家畜伝染病の発生原因の一つとして、畜舎内への野生動物の侵入によるウイルスのまん延の可能性があり、発生防止のために農家に過度の負担がかかることから、支援は不可欠である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）	
(評価) 2	令和6年度は高病原性鳥インフルエンザが発生したが、周辺農家の自衛防疫活動により、その後の発生予防ができている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	一般社団法人岐阜県畜産協会と連携を密にして、事業の有効活用を図っている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項
法定伝染病以外にも、伝染病は散発しており、拡大防止並びにまん延防止のため、全農家が取り組む必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか
自衛防疫対策の中核として、各団体への指導、連携を図り、生産者等の衛生意識と家畜伝染病の発生予防を継続するため、引き続き事業の実施が必要。